



新年あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。  
本年も宜しくお願い致します。  
また、皆様にとりまして実り多き年と成る様に御祈念致します。



## お正月

裕俊

新年明けましておめでとうございます。今月は、お正月にまつわるお話です。正月は本来、その年の豊穡を司る歳神様をお迎えする行事であり、一月の別名です。「お盆」の半年後にやってくる正月は、本来お盆と同じく「先祖をお祀りする行事」でした。しかし、仏教が浸透し、その影響が強くなると、お盆は仏教行事の盂蘭盆会（うらぼんえ）と融合して先祖供養の行事となり、正月は歳神を迎えてその年の豊作を祈る「神祭り」となり、はっきり区別されるようになったようです。

また、歳神様を迎える為に正月飾りと呼ばれる様々な飾り付けをします。鏡餅は歳神さまを家に迎えるための依り代とされています。神様を迎える行事なので、神宮寺には関係ないのではないかと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、仏教では神様も仏様の化身（権現信仰）である、と考えております。

山門の前に門松を立てたり、鏡餅をお供えしたりと、お正月に参拝して頂いた方には、普段は見られない神宮寺の姿が見る事が出来ます。是非、ご参拝にいらしてくださいませ。



## 弘法大師のことば 良啓

虚空尽き、衆生尽き、涅槃尽きなば、我が願も尽きん。

性霊集補闕鈔卷第八高野山万燈会願文

全ての存在（虚空）が終わり、全ての人々（衆生）が悟って仏となり（結果、衆生が絶え）、悟りの世界（涅槃）が終わる時、私（空海）の願いも成就します。

病に侵され、自らの死を前にして述べた言葉です。懐の深さ、他者への慈悲の心が滲み出ています。正に大乘仏教の利他（衆生救済）の精神をストリートに表現しています。

また、この一文が空海を「生身の人間」から「永遠の弘法大師」へと昇華させたのではないでしょうか。何故なら、空海の願いは、世界と人類と仏様が続く限り永遠に続きます。つまり、永遠に私達を見守ると言う「入定信仰」（今も高野山で定座禅をしながら、人類救済を行っていると言う信仰）につながります。

私達は、独りではありません。常に高野山からお大師様が見守って下さっています。

さあ、新たな希望を心に宿して、お大師様と共に新年を踏み出しましょう！



高野山奥之院  
（空海入定の地）